

令和7年度 学校経営計画

一関市立巖美中学校

1 学校教育目標

理想に燃え、たくましい生徒
よく学び、よく考える生徒
明るく、心豊かな生徒

2 めざす生徒像 理想に燃え、仲間と共に励ましあい、自己を磨く生徒

3 学校経営方針

- (1) 「学力（知育）」「心（徳育）」「健康・体力（体育）」を育む学校経営を行う。
- (2) 教職員が自己の役割と責任を明確にし、生徒及び地域の実態に応じた学校経営を行う。
- (3) 学校・家庭・地域のより良い連携を図り、望ましい教育活動ができる学校経営を行う。
- (4) 岩手・宮城内陸地震及び東日本大震災津波を風化させないよう復興教育を中心とした学校経営を行う。

4 めざす学校像

- (1) 活力があり魅力ある学校
 - ①家庭・地域との協働による目標達成型の学校（まなびフェストによる評価・改善）
 - ②学校運営支援協議会（コミュニティスクール）・豊心協との協働による学校
 - ③地域部活動と円滑に協働できる学校
- (2) 気力と実力の伴う学校 【学校教育目標：理想に燃え、たくましい生徒】
 - ①基本的な生活習慣が身についている学校
 - ②静と動の切り替えができる学校
 - ③復興教育・進路実現に向けて取り組む学校
- (3) 成就感のある授業ができる学校 【学校教育目標：よく学び、よく考える生徒】
 - ①研究主題に迫る授業実践及び授業改善ができる学校
 - ②「個別最適な学び」（指導の個別化・学習の個性化）が充実している学校
 - ③「協働的な学び」（ICT 積極的活用も含め）が充実している学校
- (4) 豊かな文化と潤いのある学校 【学校教育目標：明るく、心豊かな生徒】
 - ①「ふるさと隊」をはじめ、地域とともに歩む学校
 - ②命と人権及び多様性を重んじ、自律ある生活ができる学校
 - ③「いじめ」「不登校が」なく、喜びを分かち合える人間関係作りができる学校

5 学校経営重点

- (1) 心身共に健康な生徒の育成
 - ①基本的な生活規律の育成
 - ア 「私たちの心得」の定着（まなびフェスト）
 - イ 「早寝、早起き、朝ごはん」、「食育」（まなびフェスト）
 - ウ 「私たちの心得」の定着、語先後礼の取り組み（まなびフェスト）
 - エ 情報モラル教育（スマホ利用等）
 - ② いじめ・不登校のない学校づくり
 - ア 発達支持的生徒指導の充実（生徒指導の3機能：自己決定・共感的人間関係・自己存在感）（まなびフェスト）

「発達支持的生徒指導とは、特定の課題を想定せず、思いやりや共感性、自己理解力や課題解決力等を育成すること（令和4年11月7日 生徒指導提要の改訂）
学校活動全体においてあらゆる場面で育成すること

- イ 教育相談の充実（まなびフェスト）担任以外の教育相談の機会確保（年度末反省より）
- ウ 個別のニーズや多様性に対応した生徒指導（まなびフェスト）
- エ 「いじめ基本方針」に即した未然防止及び組織的対応
- オ アンケートの実施、日常観察場面の拡大
- カ 問題行動や生徒指導事案に対しての速やかで適切な対応（年度末反省より）
 - スピード感をもった情報共有と初動対応（まなびポケットメール、回覧板の使用）
 - 生徒指導委員会の立ち上げと組織的対応
 - 誠心誠意学校ができる対応心がける
- ③ 鶏舞の継承活動と「ふるさと隊」の推進
 - ア 鶏舞の継承活動（まなびフェスト）
 - イ 「ふるさと隊」への参加（一人2回以上）
- ④ 創意に満ちた生徒活動の実践
 - ア 行事を通して責任感や成就感等の育成（つながりを強めるレク等の実施）『ランチミーティングより』
 - イ 生徒会による生活・学力向上運動（まなびフェスト）
- ⑤ 進路目的意識の高揚
 - ア キャリア教育の充実
 - イ コンクールや大会等への積極的参加（まなびフェスト）
- (2) 特別支援教育の推進
 - ア 特別支援委員会の実施（月1回定例化）指導の方向性までの確認（年度末反省より）
 - イ 個別の指導計画や支援計画の作成とその活用
 - ウ 全教職員による支援体制の構築
 - エ 保護者、外部機関等との連携
 - オ 見通しを持った適切な進路指導
- (3) 確かな学力の定着
 - ① 基本的な学習規律の育成
 - ア 「私たちの心得」の定着（まなびフェスト）
 - ② 授業力の向上と個に応じた指導の充実
 - ア 「個別最適な学び」（指導の個別化・学習の個性化）「協働的な学び」の充実
 - イ ICTの積極的活動
 - ウ 個々の教師の授業力の向上（校内研修の充実）
 - ③ 家庭学習の定着・充実
 - ア 「学びのすすめ」の活用（まなびフェスト）
 - イ 授業と連動したタブレットの学習の提供（まなびフェスト）
 - ウ 各種検定の受検の奨励（まなびフェスト）
 - ④ 朝読書の継続（まなびフェスト）
 - ⑤ 諸検査を有効活用した取り組みの実践
 - ア 各種検査結果の分析とその補充
 - イ 校内研修会等を活用した授業力の向上
 - ⑥ 陰山メソッドの導入とより効果的な指導法の工夫
 - ⑦ GIGAスクール構想への推進
- (4) 復興教育の推進
 - ① 命を大切にして、生き抜く力の育成
 - ア 「道徳の時間」を要とした平素の指導
 - イ キャリア教育を推進し夢や希望を持たせる指導の充実
 - ② 人や地域との絆づくり（SDGsの視点含む）
 - ア 人と人との繋がり大切さを学ぶ福祉体験・資源回収等の実施（SDGs）
 - イ 他の人や地域社会に役立つ喜びを知るボランティア活動の実施（SDGs）（まなびフェスト）
 - ウ ふるさとへの理解を深める伝統芸能「鶏舞」の伝承（まなびフェスト）
 - ③ 防災や安全への備え
 - ア 岩手・宮城内陸地震にちなんだ防災学習（まなびフェスト）
 - イ 被災地体験を通して、東日本大震災津波とその被害の理解（まなびフェスト）

ウ 自分の身を守るための避難訓練の実施（まなびフェスト）

エ 身を守り、生き抜くための応急手当や心肺蘇生法の学習

(5) 「学び続ける教師」への支援

- ① 事務所、市教委主催の研修会への積極的参加
- ② 将来の岩手を担う若手教員の人材育成（ある程度責任のある仕事を任せ、力量を高める）
- ③ 「教員等育成指標」を活用した対話による人材育成
- ④ 先生方の専門性及び「強み」を生かした調和のとれた校務分掌

5 開かれた学校づくり

- (1) 学校運営支援協議会（コミュニティスクール）との適切な連携
- (2) 継続的な小中連携
- (3) 教職員による自己評価、保護者や生徒等の学校評価による学校運営の改善と充実
- (4) 外部講師の積極的活用と、地元企業や福祉施設などを活用しての体験活動の実施
- (5) 校報等による積極的情報発信と地域行事やPTA行事を始めとして様々な機会を通しての情報発信

6 学校評価（目標達成型の学校経営：まなびフェスト）

(1) 学校評価の目的

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価することにより、学校としての組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の講評・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。

(2) 学校関係者評価

- ① 保護者、学校運営支援協議会役員、地域住民等の関係者などにより構成された委員会等が、その学校の教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果について評価することを基本とする。
- ② 既存の組織である学校運営支援協議会（コミュニティスクール）を活用して行うこととする。

(3) 学校内評価

10項目 アンケートはまなびポケットで集計を行う。「(4) 特別支援教育の推進」は、項目に入れない。内部評価とする。）

① 心身共に健康な生徒の育成

- ア 家庭・学校では、「あいさつの励行」に取り組んでいる。
- イ 家庭では、「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいる。
- ウ 家庭では、「居間9ルール・ノーメディア習慣」に取り組んでいる。
- エ 学校は、「いじめ防止」に取り組んでいる。

② 確かな学力の定着

- ア 学校は、「学力向上に」に取り組んでいる。
- イ 家庭は、「家庭学習」に取り組んでいる。

③ 復興教育の推進

- ア 家庭・学校は、「鶏舞の継承・ふるさと隊」に取り組んでいる。
- イ 学校は、「復興に係る教育」に取り組んでいる。

(4) 開かれた学校づくり

- ア 学校は、「授業参観」等、積極的な来校に取り組んでいる。
- イ 学校は、「講演会」等に取り組んでいる。